

## 認定薬局制度の現状と展望

座長  
日本薬剤師会理事  
山田武志  
宮城県薬剤師会常任理事  
金田早苗

2019年に医薬品医療機器等法が改正され、20年8月からは薬剤師・薬局を取り巻く状況が変化中、患者が自身に適した薬局を選択できるよう、薬局の認定制度として「地域連携薬局」「専門医療機関連携薬局」が新設され、薬局の役割や機能強化が図られることとなった。その中で地域との関わりや多職種連携など、制度に沿った取り組みが求められている。

本分科会では、超高齢社会などを背景とした地域包括ケアを念頭に置いた地域医療体制の中、改正の目指す姿や先進的実践例などを紹介しながら、今後の薬剤師の役割について議論する。

基調講演では「認定薬局制度の現状及び今後の展望」と題して、厚生労働省医薬・生活衛生局総務課の太田美紀薬事企画官に認定薬局制度施行から1年が経過した現在、5月末時点で地域連携薬局が2696件、高度医療機関連携薬局が110件となる中、これらの認定薬局が地域においてどのような機能、

役割を果たしているか、コロナ禍における役割等も含めて解説し、今後の展望についてご講演いただく。

次に「地域連携薬局の実践活動報告」と題して、ほし薬局星利佳氏から新型コロナウイルスの感染が拡大し、本来行われるべきことが中止や延期となる中で、ウェブを利用した多職種連携や新型コロナで自宅療養中の患者への薬剤配送業務や無料検査などの新型コロナ対応を通じて、地域包括ケアシステムの一翼を担う薬局となるために地域連携薬局として、その役割を模索しながら取り組みを行ってきた活動についてご講演いただく。

続いて「専門医療機関連携薬局としての現状報告と今後への期待」と題して、まつもと薬局大野伴和氏から専門医療機関連携薬局として、癌等の専門的な薬学管理に対応すると共に、地域薬局における研修施設の役割として、連携医療機関での研修内容をもとに、地域の保険薬局を対象として行っている勉強会への取り組みを通じて、これからの薬剤師に必要な地域医療教育についてご講演いただき、最後に総合討論として、認定薬局制度の現状と展望を通して、今後の薬剤師の役割について議論を行う。(山田武志)

## がん化学療法における薬剤師の役割と連携

座長  
日本薬剤師会理事  
舟越亮寛  
宮城県薬剤師会常任理事  
瀬戸敏之

近年、複数の分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬が上市され、外来治療を通院継続しながら職場復帰や日常生活を送れる患者が増加している。一方で、前述した抗癌剤は副作用の発症時期が異なるなど、患者の治療中の不安を解消するための治療管理が重要である。

そのような社会的背景から、2020年度診療報酬改定により連携充実体制加算、調剤報酬改定により特定薬剤管理指導加算2が新設された。さらに20年9月施行の薬剤師法改正による継続的服薬指導、21年8月施行の薬機法改正による専門医療機関連携薬局の認定制度が始まり1年が経過したところである。合わせて副作用の発症時間も様々であるため時間外の体制も重要である背景から、22年度診療報酬改定では外来化学療法加算が見直され、外来腫瘍化学療法診療料が新設された。

急速に体制整備され、各地域において薬業連携が充実しつつあるが、専門医療機関連携薬局についてはこれから認定取得を目指す保険薬局が多く、先行事例の共有が求められているところ

である。そのため先行事例の紹介として、まずは「薬局・薬剤師に期待すること」と題して、前国立がん研究センター理事長特任補佐の中山智紀氏から調剤報酬の動向や実績等のデータを交えて、効果的な薬業連携の実例を紹介いただく。

次いで、専門医療機関の立場から「乳癌治療における『医-薬(病院)-薬(薬局)』連携の構築—地域で癌治療を支える取り組み」として東北大学病院の原田成美先生、「医療機関と薬局とのよりよい連携のために病院薬剤師として出来ること」として国立がん研究センターの松井礼子先生から保険薬局との連携についてテレフォニフォロからトレーシングレポートの実例と検証評価を紹介いただく。

最後に、専門医療機関連携薬局の立場から、ひかり薬局大学病院前調剤センターの松浦綾子先生から地域での癌治療を支える取り組みや情報連携にみよぎ医療福祉情報連携ネットワークを活用した取り組みについて紹介いただく。

このように体制が整備充実された中で癌化学療法に関わる各立場から、保険薬局薬剤師への期待や業務のあり方について情報を共有し、シームレスな癌化学療法患者のフォローアップ体制の構築について議論する。(舟越亮寛)

## 分科会の見どころ・聞きどころ

関連記事  
8~10、15~17面

## 薬局におけるフレイル・サルコペニア対策への貢献

座長  
宮城県薬剤師会常任理事  
小坂浩之  
松島病院薬剤部長  
宮城昭一

高齢化社会の問題の中で健康寿命が重要な課題として明るみになっているフレイルとサルコペニアであるが、薬局、薬剤師による関わりやあり方について、学びおよび行動起点としたい分科会である。

まずは、基調講演として宮城県薬剤師会顧問で前会長の佐々木孝雄先生から、日常汎用される多くの医薬品がフレイル・サルコペニアの促進因子として作用する可能性についてお話していただく。さらに、フレイルの評価指標などに基づいて患者観察を行い、その体調変化と服用薬剤との関連性を考察することで、保険薬局の日常業務の中でも可能なフレイル・サルコペニアの進展抑制についてもお話しいただく。

また、フレイル、サルコペニア対策には、様々な起因理由があることから、多職種連携がより重要な要素とな

る。そこで栄養の重要性、栄養管理が適切な状態にないと改善は困難となることから、薬局における栄養管理についての関わりについて管理栄養士の塩野崎淳子先生にご発表いただく。

栄養と合わせて筋力の維持改善においても運動療法は言うまでもなく大切な要素となる。薬剤師が様々な患者対応の中でスクリーニングによる早期発見と対策への役割を担うことの可能性を、理学療法士の取り組みと合わせて山田実先生からご発表いただく。

その後に薬剤師の実際の取り組みとして、仙台市薬剤師会のワーキンググループによる発表として、参加薬剤師の知識と意識の向上、参加薬局の具体的対応、地域への関わり事例等の内容について、ワーキンググループを代表して関口総司郎先生にご発表いただく。

分科会全体として、既に対応を求められている保険薬剤師の服用中の患者へのフォローという視点、薬剤師だからこそ可能な今後の総合的アセスメントのあり方についても、触れていくことができる内容となるので、ぜひご来場いただければと思う。(小坂浩之)

## 地域フォーミュラリの推進に向けて

座長  
日本薬剤師会副会長  
安部好弘  
東北医科薬科大学名誉教授・客員教授  
渡辺善照

フォーミュラリは「患者に対して有効性・安全性・経済性などの観点から選択されるべき医薬品および使用指針」と定義されているが、院内フォーミュラリと地域フォーミュラリでは、その特性やあり方は大きく異なる。

フォーミュラリの活用は、経済財政と改革の基本方針2021において、後発医薬品の使用促進との関連として明記されている。また、欧米諸国で実施されているフォーミュラリの仕組みは、推奨医薬品以外の処方へ極めて抑制的な制限をかけており、わが国でも同様の結果につながるという懸念が大きな障害となっているのではないだろうか。地域フォーミュラリ推進に向けては、わが国の医療・保険等の制度を踏

まえた上で、標準的な薬物療法を実施するためのツールとして明確に位置づけることが必要であろう。

本分科会では、厚生労働省医薬安全対策課長の中井清人氏に医薬品の適正使用に薬剤師がいかに関わるべきか基調講演していただく。薬剤師に対する叱咤激励があるのではないかと期待をしている。続く講演では、日本フォーミュラリ学会副理事長の近藤太郎氏から、医師の視点から地域フォーミュラリのメリット・デメリットについて、大阪府八尾市薬剤師会会長の中野道雄氏から八尾市で実践された地域フォーミュラリの経緯や成果等を踏まえた考察をお示しいただく。

全国には1700余りの市区町村、700余りの地域薬剤師会が存在する。地域フォーミュラリが進展するためには、先進事例や学会等の成果を活用し、効率的な導入と継続的な運用を行うための基盤の標準化なども必要となろう。本分科会がその一助となるよう議論を深めたい。(安部好弘)

### JAPIC 医療用医薬品集 2023

2022年9月発売



- ◇ 国内流通全医療用医薬品の最新で正確な添付文書情報をお届けします。
- ◇ 約50年の編集実績による信頼と使いやすさ。
- ◇ 2022年6月後発品まで掲載。
- ◇ 一般名の五十音順で項目を配置し、先発品と後発品の効能・用法の違いを一目で把握できます。医薬品の選択にご活用下さい。
- ◇ 「薬剤識別コード一覧」を掲載。
- ◇ 更新情報メールの無料提供(要登録)。
- ◇ CD-ROM付。
- ◇ 分冊にて制作し、本文が見やすく・調べやすくなりました(ケース入り)。

ISBN: 978-4-86515-199-2 B5判 約4,300頁(本文) 価格 14,300円(税込)

編集・発行 一般財団法人 日本医薬情報センター JAPIC

FAX 0120-181-461 TEL 0120-181-276

### JAPIC 一般用医薬品集 2023 (要指導医薬品を含む)

2022年9月発売



- ◇ 医薬品医療機器総合機構(PMDA)・日本製薬団体連合会(日薬連)と連携し、最新の一般用医薬品添付文書を網羅的に収集。
- ◇ 付録として、
  - ・国内副作用報告の状況
  - ・重篤副作用疾患別対応マニュアル(アナフィラキシー他)
  - ・セルフメディケーション税制(医療費控除の特例)対象品目一覧
  - ・リスク区分情報
  - ・ブランド名別成分比較表 等を収録。

ISBN: 978-4-86515-202-9 B5判 約2,000頁 価格 9,900円(税込)

発売 丸善出版株式会社

FAX 03-3512-3270 TEL 03-3512-3256